

選択する未来

「選択する未来」委員会報告 解説・資料集

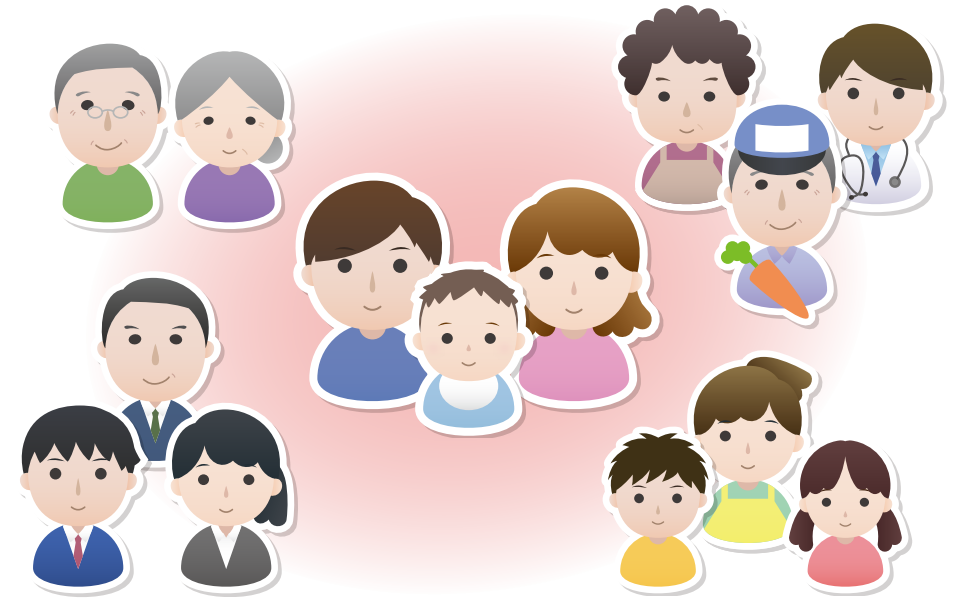
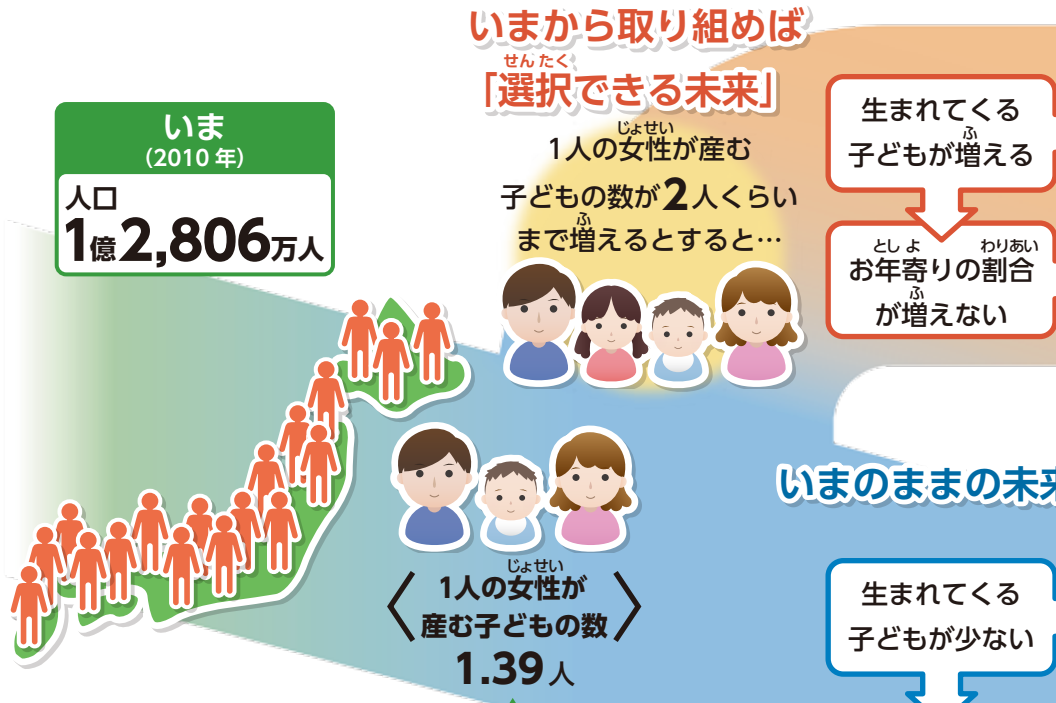
みらい

みらい



政策統括官(経済社会システム担当)

いまのままでは、日本の人口は急激に減っていくと予測されています。

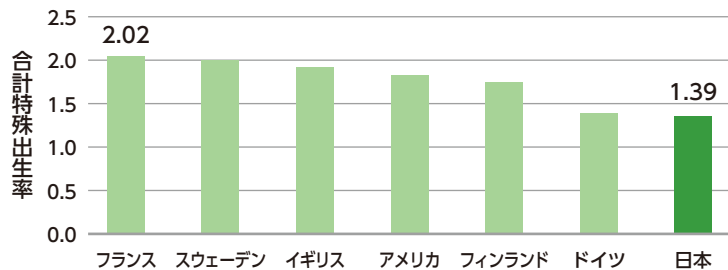


現在の暮らし方は、時代が大きく変わってきているなかで、すこし窮屈に無理をしている面があるかもしれません。都会に出て忙しく働き、ふるさとをかえりみる余裕もないままに過ごす。結婚し、家庭を築き、子どもを産み育てたいと思いつつながら、現実にはそうもいかないまま、どんどんと歳を重ねている。もう少し、希望がかないやすい社会であることが必要です。地域の魅力や特色、日本らしさが大切にされ、希望に沿った働く・産むの選択ができる、そんな社会です。多くの人があることに気が付き、世の中の仕組みも少しずつ変わり始めています。

外国では何人くらい子どもを産んでいるの？



日本と同じような先進国にも、2人くらいの子どものが生まれている国はたくさんあります。



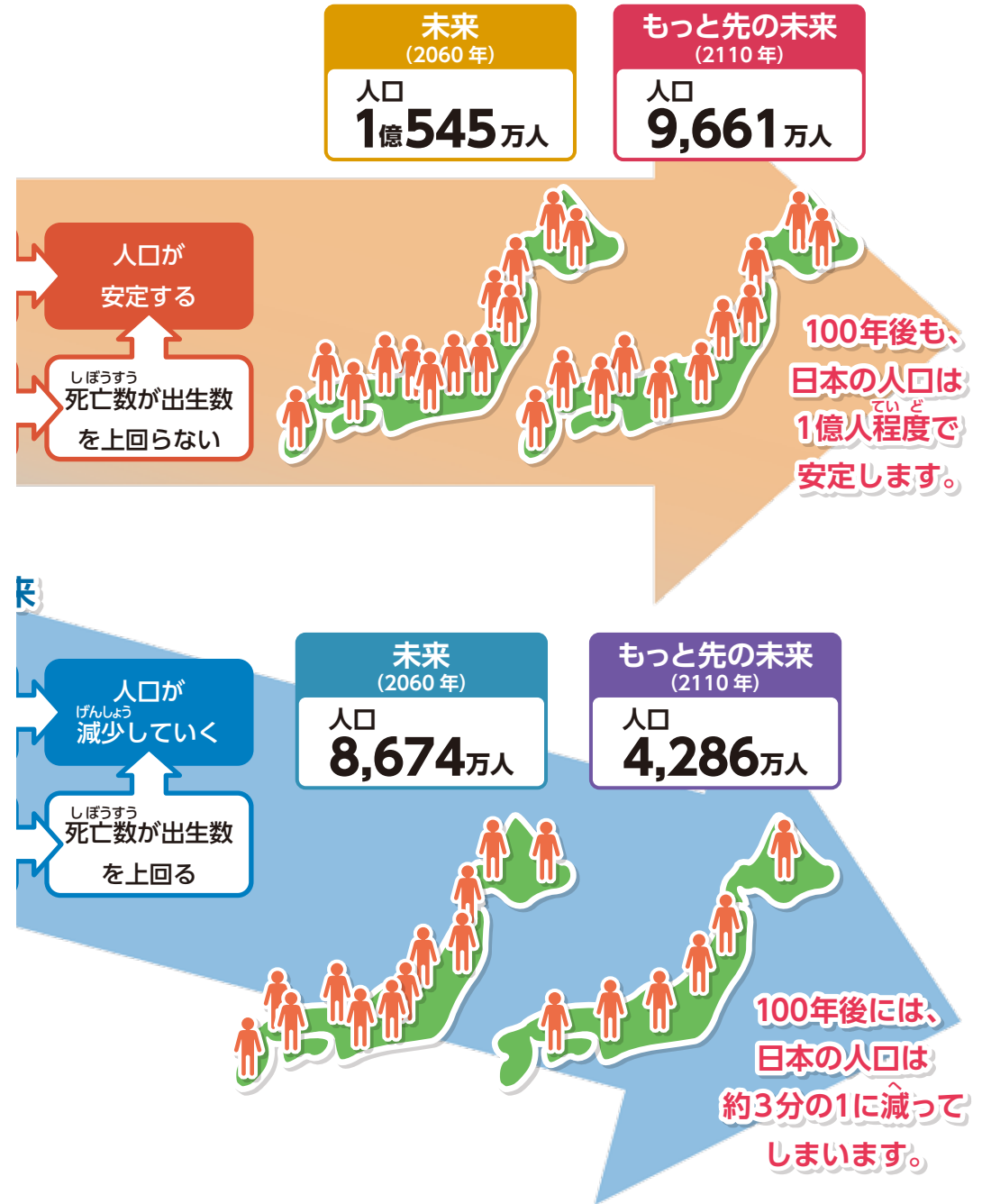
※ 合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

希望をもって希望をかなえようとする一人ひとりの挑戦や努力と、希望がかないやすい社会にしていく周囲の理解や協力があれば、未来は変わっていくことでしょう。人々の行動が変わる場合と、現在のままの場合では、到達する未来—一人ひとりの未来と、日本全体の未来—はとて大きく違ったものになります。

ゆた 豊かさの続く明るい日本の未来をめざして

戦争が終わった直後の1940年代末頃に7,800万人くらいだった日本の人口は、現在は約1億2,700万人、1.6倍になりました。経済の規模を示すGDPは、高度経済成長前の1955年に47兆円でしたが、現在は480兆円、10.2倍まで大きくなりました。半世紀余りの間にはこのくらい大きな変化が生じます。

現在のままだと、日本の人口は、100年後には3分の1くらいの4,000万人くらいになり、それに伴って経済の規模も急速に縮小し、多くの地方のまち・むらが行きづまることになると考えられています。ただし、これは「現在のままだと」という仮定の下での単純な推計に過ぎません。未来は、人々の行動、特に若い人たちの行動の変化によって変わります。



世代間のバランスが崩れるとさまざまな歪みが生じ、また、若い人が少なくなると活力が低下することが懸念されます。

- 15歳未満
- 15歳以上、64歳以下
- 65歳以上

いまの人口構成を学校のクラスで例えると...



いまから取り組めば

「選択できる未来」

1人の女性が産む子どもの数が2人くらいまで増えたとすると...



働き手の数が安定する

ゆたか

日本らしさ

東京

働き手と支えられる人のバランスが安定する

しやう

関係



世界に開かれた東京と、地域の自然や文化、歴史などが噛み合っ、新しい価値が創造され活力が保たれます。



いまのままの未来



1人の女性が産む子どもの数 1.39人

働き手が減る

ゆたかさ

に黄

未来

働き手と支えられる人のバランスが不安定になる

しやうらい

将来が

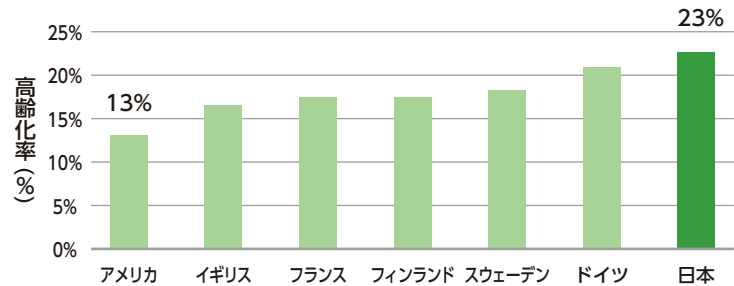
吸収

東京



外国では、お年寄りの割合はどのくらいでしょうか？

世界的に見て、日本はもっともお年寄りの割合が多い国です。



※ 高齢化率：総人口に占める 65 歳以上人口の割合

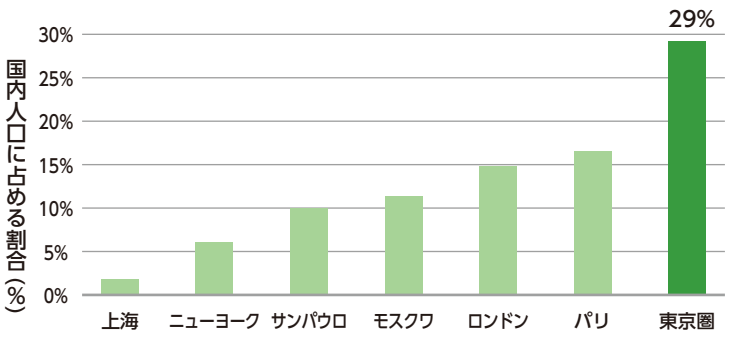
東京は過密になり、地域の魅力や特色は失われ、日本全体の活力が失われます。

ちいき みりよく
地域の魅力や特色、日本らしさを大切にする
 ことを通じて日本全体の活気が保たれます。



**外国の都市と比べて、東京にはどのくらい集中
 が進んでいるのでしょうか？**

東京は、世界的に見ても著しく人口集中している都市です。



働く人が少し減ります。子どもの数は横ばい、お年寄りが少し増えます。



子どもと働く人、お年寄りのいまのバランスがほぼ保たれます。

100年後も、バランスの取れた人口構成が維持されます。



子どもと働く人が減り、お年寄りが増えていきます。



子どもと働く人がさらに減り、次いでお年寄りも減っていきます。

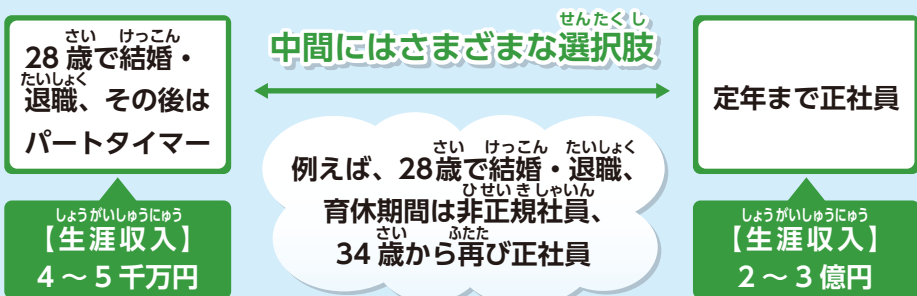
**50年後、100年後には、働く人とお年寄りの
 バランスが不安定になり、子どもは著しく少なくなります。**

働く・産むの選択はとても重要です。 一人ひとりの未来と、日本の未来を変えます。

若い成人の約 9 割は、結婚して、2、3 人くらいの子どもを持ちたいと希望しています。しかし、近年は、30 歳直前の男性の 7 割、女性の 6 割が未婚で、その後、結婚しても子どもを 2 人持つに至らない家庭が多数を占めています。20 歳代の女性の 8 割ほどは就職しますが、結婚、出産、子育ての時期には、仕事を辞めたり、変えたりする人がたくさんいます。

働く・産むの選択はとても重要です。何をどのように重要視して選択していくか、自身の希望や能力、個性などを踏まえながら、十分によく考える必要がありますが、選択のタイミングにも気をつける必要があります。あとから挽回できることと、あとからの挽回が大変なことがあることを意識することが大切です。

働きかたと出産の選択



(備考) 収入、出産等は個人差が大きく、上記は「選択する未来」委員会での参考資料等によるイメージである。

出産時期の選択

早く産む (20代～)

<メリット>

- 出産適齢期に産める
- 体力がある、休んでもまだ大丈夫なポジション、子育てにがんばり頑張れる

<デメリット>

- 同期に後れをとる気がする
- 経済的な余裕がない

(あとから挽回もできる)

遅く産む (30代後半～)

<メリット>

- キャリアを形成し、地位を固めてから産める
- 経済的な余裕がある

<デメリット>

- 流産や不妊リスクが高まる
- 体力が低下、責任が重く育休をとりにくい、子育てが辛い

(あとからの挽回が大変)

(備考) 収入、出産等は個人差が大きく、上記は「選択する未来」委員会での参考資料等によるイメージである。

働きかたの選択肢は増えています。柔軟な働きかたができるケースも増えています。結婚、出産に関しては、年齢が上がっていくと、女性、男性ともに、子どもを授かることが徐々に難しくなることに気をつける必要があります。働きかたや出産時期などの違いによるメリット・デメリットを意識して、自分に合った選択をすることが大切です。

働く・産むの選択に際して、柔軟な発想、多様な観点を持って臨めば、希望はかなえられやすくなります。また、老若男女それぞれがイキイキと活躍できるように、もっと周囲の理解や助け合いが広がっていくことが望まれます。